

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.53

12歳の頃の思い出



4月、入学シーズンですね。

今春から長岡中学校が鳥羽東中学校に統合され、長岡地区の40人の生徒はスクールバスで鳥羽東中学校へ通うことになりました。昭和22年に創立し、75年間で4104人を輩出した長岡中学校。地域のみならず卒業生のかたがたは一抹のさびしさも感じられることでしょう。地域のみならずが予定を5年前倒しにするという英断を下されたことに敬意を表したいと思います。生徒のみならずには、勉学はもとより、選択肢を増えたクラブ活動など、新しい仲間と可能性をどんどん広げていただきたいです。



長岡中学校閉校記念誌

さて、中学への進学というと、私の時代は安楽島小学校の卒業生は加茂中学校へ進みました。当時はそのタイミングで遠距離通学のために、ほぼ全員が新しく自転車を買いしました。小学6年生と言えどもまだ自転車に乗れない子もあり、入学を前に一生懸命に練習していたのを覚えています。乗れないと通学できないのですから必死だったと思います。

女子は今でいうママチャリ。ただし変速機などはついていません。男子はというと、競い合うように5段変速、方向指示器、スピードメーターがほぼベーシックな装備で、中には時計やバックミラー付きのものまであり、なかば牽制し合いながらハイスペックの自転車を買ったことを思い出します。

通学路は約4キロ。通称「加茂道」ですが、中学へ行つてから、加茂の人は「安楽島道」と呼ぶことを知り、なるほどと思いました。小中学校ですが、

このことで人生の大切なことを一つ学びました。

道路は未舗装、ひどい轍、街灯などない山中。雨の日はかっぱに長靴。日没までクラブ活動をして、真っ暗な中を、時には一人で帰ることもありました。私たち男子だけでなく、女子も同じようにしていたと思うと隔世の感を覚えます。

さて、私の片倉シルク号はその後、高校へ通うのに鳥羽駅まで3年間、大学時代に埼玉の大宮市(現さいたま市)、東京都葛飾区へ。就職して埼玉県久喜市、転勤して名古屋へと引越すたびに同行し、とつとつ鳥羽まで帰ってきました。小学6年生の時に買ってもらったから約15年。SDGs風と言うなら「買ってもらう責任、使う責任」といったところでしょうか。

しかしそれより長く大切に使っている物がほかにありません。その紹介はまたの機会に……



この峠を越えると、岩倉へ向けて、あとは一気にかけ降りるだけでした…



Vol.211

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

「人の世に熟あれ 人間に光あれ」

全国水平社創立百周年

大正11年(1922年)3月3日、京都の岡崎公会堂で全国水平社の創立大会が開催されました。いわれなき厳しい差別に苦しんできた被差別部落のかたたちが、自らの力で人間としての平等を勝ち取り、差別からの解放をめざす運動(部落解放運動)に立ち上がったのです。その大会で採択された宣言は、「水平社宣言」といわれ、日本初の「人権宣言」ともいわれています。

この宣言には、『同情やあわれみ、いたわりではなく、わたしたちは、自ら人間を尊敬することによって立ち上がり、自由と平等を求め運動を起こす。差別を受けてきた自分たちだからこそ人生の熱と光を求め、お互いを尊敬し合える社会の実現をめざす(要約)』ということが書かれています。その宣言の最後に

書かれた言葉が「人の世に熟あれ 人間に光あれ」です。この宣言は、被差別部落の人々の思いを世の中に知らせるとともに、あらゆる差別を許さず、誰もが一人の人間として尊重される社会をめざす運動の原点として、現在も生き続けています。

水平社宣言から100年後の今、日本国内では、人権教育や啓発活動などの取り組みにより、人権尊重の意識は高まってきました。しかし、部落差別にかかわる偏見や差別意識は根強く存在し、結婚や就職、土地売買などの際に差別事象が発生しています。また、情報化の進展に伴って、あらたな差別事象も発生するなど厳しい現状があります。

このような現状を受けて、平成28年(2016年)に「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)が施行されました。この法律は、第一条で、現在もなお部落差別が存在することを明記し、基本的人権を保障する憲法にのっとり、部落差別のない社会を実現することを目的としてつくられました。この目的を踏まえ、わたしたち一人ひとりが水平社宣言の精神を受け継いで当事者意識を持つことで、あらゆる差別をなくす行動へつなげていきたいと思います。